

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.10 2011年5月31日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

VTV ジャパン、テレビ会議のトータルサポートサービスの提供を開始

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、テレビ会議のトータルサポートサービス「VTV Care(プイティブイ ケア)」の提供開始を発表した。(4月27日)

「保守サービスにおいては、最近、とりわけ運用面においてさまざまなご要望をいただくことが多くなった。そのため当社としても、当社設立以来16年のノウハウを踏まえた、さらに充実したサービスメニューの検討を行った。今回発表した新サービスによって、従来よりもさらにきめの細かいサポート対応を行えると自負している。」(VTV ジャパン)



VTV Care(VTV ジャパン 資料)

VTV Care は、端末保守サービスを提供する「VTV Basic Care(VTV ベーシックケア)」と、テレビ会議の利便性向上を目的とした運用やトレーニングからなる「VTV Advanced Care(VTV アドバンスドケア)」からなる。

VTV Basic Care のサービスでは、電話やメールでの「コールサポート」で専任のスタッフが操作説明や障害切り分けを行い、必要に応じて、当該機が故障の場合は「代替機貸し出し/製品交換」あるいは、故障対応のための作業員派遣を行う「オンサイト保守」のサービスを提供する。

一方、VTV Advanced Care では、「会議運用代行リモートサービス」、「会議立会いサービス」、「マニュアルカスタマイズサービス」、「トレーニングプログラム」を提供する。

「会議運用代行リモートサービス」では、VTV サポートデスクのスタッフが、同社に設置している PC からユーザの MCU へアクセスし、会議予約、会議接続および接続状況の確認、不具合時の対応、会議進行にあわせた操作、月間会議レポート提出(予約会議数/参加拠点など)を行う。その他、接続に問題が起きた時は、同社のサポートデスクスタッフが各拠点へ直接連絡し、不具合の対応を行う。「ユーザが行うことは、会議時間前に接続する各端末を起動させておだけ。」(VTV ジャパン)

費用については、1ヶ月当たり10会議まで135,000円(税別参考価格、以下同)。11会議目以降は、5,000円/会議。会議中に画面レイアウト変更、表示拠点の変更、マイク ON/OFF 操作などを希望の場合は別途費用がかかる。なお、MCU へアクセスするためのネットワーク手配についてはユーザの負担となっている。

次に、「会議立会いサービス」は、VTV サポートデスクのスタッフがユーザ指定の拠点に訪問し、テレビ会議の準備や機器操作について現地サポートするサービス。その際には、テレビ会議で開催する会議進行についての事前の打ち合わせから各接続端末との通信確認、さらには、当日会議中の機器操作や接続状況監視、障害対応まで含まれる。

「当社が、お客様に代わってテレビ会議の準備と操作を行うので、お客様は煩雑な準備から解放され会議に集中していただくことができる。」(VTV ジャパン)

この会議立会いサービスには、(1)専用 MCU 装置を使用する多地点会議と、(2)MCU を内蔵したテレビ会議端末を使った多地点会議の2種類があり、それぞれ料金設定が

異なる。

専用 MCU 装置を使う多地点接続の場合、平日昼間(9:00-17:30)の基本時間 2 時間で 40,000 円から、一方、内蔵 MCU の場合は、35,000 円からとなっている。また、平日昼間以外にも、時間外(17:30-22:00/5:00-9:00)や深夜早朝(22:00-翌 5:00)の設定もある。加えて、規定の 2 時間を超えた場合の追加料金(1 時間毎)もある。

一方、「マニュアルカスタマイズサービス」は、ユーザのテレビ会議活用方法にカスタマイズしたクイックマニュアルを作成するサービス。マニュアルには、テレビ会議使用者が会議室で使用するためのものと、導入企業のシステム担当者が使用する運用マニュアルの 2 種類ある。

「このクイックマニュアルは、たとえて言えば、テレビや電話機の操作早見表みたいなものだが、当社が提供するクイックマニュアルは、導入企業のテレビ会議利用環境にマッチした個別のマニュアルを提供する。」(VTV ジャパン)

テレビ会議使用者が会議室で使用するマニュアルについては、VTV ジャパンが提供するテンプレートを基に作成する。導入企業の要望に応じて、テンプレートのレイアウトを変更するのみのものから、ユーザの提供する画像や説明文章を追加したりするものまで対応する。例としては、アドレス帳登録方法、周辺機器との接続方法、企業ロゴ挿入などをユーザ企業個別に制作できる。



ユーザ用クイックマニュアル例 (VTV ジャパン 資料)



システム運用クイックマニュアル例 (VTV ジャパン 資料)

レイアウト修正のみの参考価格は、3 万円(最大 4 ページ)。これには印刷 1 セット(ラミネート加工) + データ CD(PDF)が含まれる。

また、ユーザが提供するデータ(画像、テキストなど)がある場合は、参考価格は、5 万円(4 ページ)。1 ページ追加(最大 2 ページ)毎に 1 万円。これには印刷 1 セット(ラミネート加工) + データ CD(PDF)が含まれる。

システム管理者が利用する運用マニュアルに含まれるものは、MCU 操作、周辺機器の接続方法、会議準備、会議進行などがある。写真なども含めて作成することもできる。

「このマニュアルがあると、コールサポートなど障害発生時のヒアリングにおいてより迅速な解決が行えたり、あるいは、お客様の会社の中でテレビ会議のご担当者が代わられる際の引き継ぎも行きやすくなる。」(VTV ジャパン)

参考価格は、15 万円(表紙・中表紙を除く 10 ページまで)。追加 1 ページ毎に 1 万円。印刷 1 セットとデータ CD(パワーポイント)を含む。

「トレーニングプログラム」は、より効果的なテレビ会議を行うために、導入後にテレビ会議について理解とハンズオンによる操作習熟を目的としたトレーニングを行うためのサービス。たとえば、テレビ会議の仕組みや規格、映像・音声の技術、よくある不具合と対処法など基本的な知識を 2 時間程度の講習でトレーニングする内容だ。「普段テレビ会議を使用する上で知っておいたほうが良いちょっとした知識やコツを説明する。これによりテレビ会議への理解が深

まり、より使いこなせるようになると思う。」(VTV ジャパン)

なお、VTV Care サービス提供にかかわる交通費および出張費は別途かかる。詳細は確認要。

ブイキューブ、タブレット対応のペーパーレスを実現する新サービスを発表

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、「V-CUBE ペーパーレス」の販売を4月21日より開始した。(4月21日)

V-CUBE ペーパーレスは、会議資料をタブレット端末などで共有できるもの。会議中の資料をペーパーレスにするため、紙資源の削減につながるるとともに、コピー/プリントアウトが不要なため節電にもなる。



iPadでV-CUBEペーパーレス利用例(ブイキューブ資料)

V-CUBEペーパーレスは、iPad/iPad2だけでなく、Android

系タブレット、Windows、

Macでも利用可能。

タブレットで共有している資料には、マウスや指の操作により、図形やラインなど

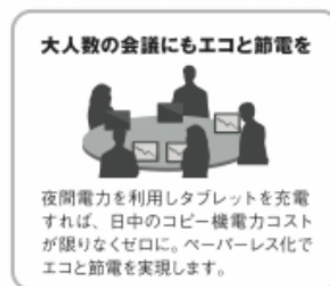
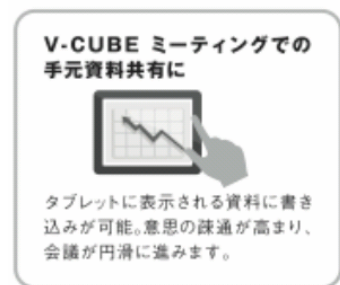
の書き込みやマーキング、拡大縮小ができる。また会議中

でも資料の修正が可能でその修正箇所はリアルタイムに参加者全員に反

映される。共有できる資料は、Microsoft Office、PDF、

画像ファイルなどさまざまなデータの共有が可能。拡大

してもきれいに映るベクター対応。議長権限機能もある。



利用イメージ(ブイキューブ資料)

資料のデータは、サーバー上から端末に表示されるため、端末には残らない仕組みになっている。また、通信にはSSL

暗号を使用しているため、データを盗み見られる心配もないという。さらに、接続元のIPアドレスを制限し、社外からのアクセスはできないようにするセキュリティ対策機能も搭載している。加えて、最大50台の端末でペーパーレス会議が可能(50台以上は別途相談)。

その他、Web会議/電話会議/テレビ会議との連携や、また、サイボウズのスケジューラとも連携(予約管理など)が可能となっている。

導入については、月額サービスベースで利用する方法と、社内にサーバーごと導入する方法を提供している。初期費用は、45,000円(税別、以下同)。月額利用料は、50,000円(同時接続数:20台)。

オプション(月額):20,000円(同時接続10台追加毎、上限50台まで、50以上は相談要)。同時利用会議室追加は、10,000円。PC画面共有:20,000円。

販売目標は、初年度(2011年12月まで)として200社への導入を見込んでいる。

ソフトバンクモバイルとダイヤル・サービス、スマートフォンのテレビ電話機能を使った遠隔カウンセリングを開始

ソフトバンクモバイル株式会社(東京都港区)とダイヤル・サービス株式会社(東京都千代田区)は、スマートフォンのテレビ電話機能を使った遠隔カウンセリングを開始したと発表。(4月20日)

4月20日より、福島県相馬市の避難所においてWi-Fi環境の構築とスマートフォンの設置を行い、テレビ電話機能を使って首都圏のカウンセラーと避難所をつなげる。顔

をみて会話をしながら、メンタルケアの遠隔カウンセリングを行う。

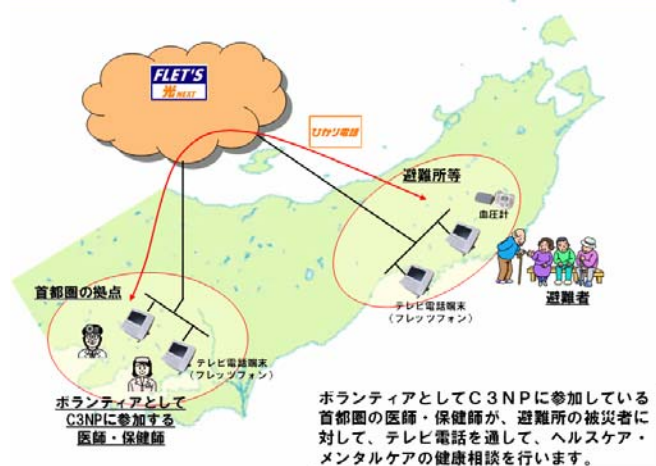
同地では、福島県立医科大学の丹羽真一教授を中心とするケアチームによってメンタルケアの健康相談が行われている。今回、スマートフォンのテレビ電話機能をつかった遠隔カウンセリングを開始することで、被災者である避難所の子供や保護者の方の心のケアサポートをさらに充実させる。

今回のカウンセリング開始にあたって、ソフトバンクモバイルは、スマートフォンや Wi-Fi などの通信環境構築を中心に協力、ダイヤル・サービスは、同社の対面型遠隔相談サービス「aelwa(会える輪)」にて遠隔カウンセリングを提供する。

相馬市以外にも、準備ができ次第他の避難所でも開始する。また他の自治体の避難所へ拡大を検討していく。

NTT 東日本とボランティアグループ C3NP、テレビ電話による遠隔健康相談の提供

東日本電信電話株式会社(東京都新宿区)とボランティアグループ「東日本大震災被災地支援 継続ケア・キュアネットワークプロジェクト(以下 C3NP)」は、テレビ電話を利用した遠隔医療相談を無償で提供すると発表。提供開始時期は、4月中。(4月14日)



遠隔健康相談サービスイメージ図 (NTT 東日本 資料)

NTT 東日本は、首都圏の医療機関および避難所等にブロードバンド回線「フレッツ光」とテレビ電話端末「フレッツフォ

ン」を設置。C3NP にボランティアとして参加している首都圏の医師・保健師と避難所等をテレビ電話で接続することで、ヘルスケアやメンタルケアの遠隔医療相談を実施する。

このサービスは、既に宮城県栗原市と岩手県遠野市において行われている遠隔健康相談と同様のサービスを、被災者に提供するもの。さらに要望のある自治体へ順次拠点を拡大する予定。

製品・サービス動向-海外

Vidyo 社、スマートフォン向けのビデオ会議アプリケーションを発表

Vidyo 社は、「VidyoMobile(ビデオモバイル)」を発表した。(4月21日)

VidyoMobile は、iOS(iPhone)や Android ベースのスマートフォンやタブレットに対応しており、デスクトップや HD ビデオ会議システムとの接続や多地点会議も可能となっている。

VidyoMobile は、エンコード(送信)は、VGA(640x480)解像度までだが、デコード(受信)は、720p HD(1280x720)をサポートしている。「Adaptive Video Layering(AVL)」アーキテクチャーを採用することで、ビデオ会議を行う端末毎の性能や環境にあわせて、映像品質や解像度を最適化することができるようになっている。

販売開始は、7月より。これに先立ち、5月8日から12日にラスベガスで開催された Interop にてデモが行われている。

ビジネス動向-海外

Carousel Industries 社、OmniPresence の買収を発表、ユニファイドコミュニケーション事業強化

米 Carousel Industries 社は、米 OmniPresence 社の買収を発表した。(4月12日)

Carousel Industries 社は、IT ソリューションプロバイダー。一方、OmniPresence 社は、オーディオビジュアルシステム

のインテグレーションやビデオ会議サービスを提供している。両者は、エンドツーエンドのビデオ会議ソリューションやユニファイドコミュニケーションソリューションを強化する一環で2010年6月に提携を発表していたが、この度 Carousel Industries 社が、OmniPresence 社を買収することになった。

これにより、OmniPresence 社(米マサチューセッツ州 Marlborough)は、Carousel Industries 社のビジュアルコミュニケーション&コラボレーショングループとして事業を展開していく。

Carousel Industries 社の設立は、1992年。以後年30-50%で成長を続け、2010年の売上は、約2億2000万ドル。顧客は、5,000社に及び、フォーチュン100社のうち35社が顧客になっているという。社員は、850人。本社は、ロードアイランド州 Exeter。全米23ヶ所にオフィスがある。Avaya やマイクロソフト、ポリコム、Sonexis/Compunetix、Juniper Networks、Masergy などと提携している。

セミナーレポート-海外

TeleSpan s Sixth Annual Future of Conferencing Workshop 開催レポート

(Electronic TeleSpan 3/21, 3/28, 4/4 各号で掲載されたレポート記事を基に抄訳)

米 TeleSpan Publishing 社は、3月17日-18日の2日間ラスベガスにおいて「TeleSpan's Sixth Annual Future of Conferencing Workshop」を開催した。今年で6回目。来年も開催予定という。

会場は満席で、参加者は北米以外には、アイルランド、ブラジル、そして日本からの参加もあった。

スポンサー企業は、Aonla Technologies 社、Global Conference Partners 社、Intercall 社、AVI-SPL 社、PGi 社、RadiSys 社、WYDE Voice 社、BRM Systems 社、ヤマハ社、Compassprogram 社、Compunetix 社の11社。



TeleSpan Workshop 会場写真 (TeleSpan 資料)

セミナーでは、遠隔会議の市場動向の他、無料の電話会議サービスや CSP 関連や、ソーシャルネットワーキングや Skype、Web カメラの動向と影響、そして、コンシューマーテレプレゼンス (consumer telepresence、つまりコンシューマーが使うビデオチャットを指す) など遠隔会議に関する多岐の話題が議論された。

遠隔会議市場動向

TeleSpan の統計によると、2010年の遠隔会議市場全体(テレビ会議、Web 会議、電話会議、グローバル売上ベース)は、前年から比べ8.1%成長し68億ドルに達した。売上の対前年成長率は、2007年が24%、しかし2008年には13%へ低下、2009年には、6.6%へさらに低下したが、2010年には、8.1%まで回復した。

そのなかで、電話会議サービスは、遠隔会議市場の中で最大の市場規模をもっていると言われている。TeleSpan の Elliot Gold 氏によると、2010年度は、前年よりも良かったが、今後市場は不安定な時期(rough road ahead)に入っていくのではないかという。

無料電話会議サービスと既存の事業者

Elliot Gold 氏が注目しているのが Freeconferece.com (Global Conference Partners)など無料の電話会議サービスの存在が市場において大きくなっているということだ。

無料の電話会議サービスでは、利用された電話料金による売上を通信事業者とシェアする形で事業を行っているが、既存のサービス提供事業者(CSP、Conferencing Service

Workshop Sponsors



Provider)からすると無料サービスは脅威となっているという。

それに対して、今回のセミナー講演した Global Conference Partners の CEO David Erickson 氏は、「無料が既存 CSP の事業を奪っているという見方があるが、当社は、CSP であるという点では、既存の有料 CSP となら変わる点はない。ユーザからみて“より安い”方法で提供しているだけだ。」と反論している。

また同社では、FCC(米 国連邦通信委員会)のユニバーサルサービス基金に対する決定を注意深く見ているという。一般の通信事業者がユニバーサルサービス基金を負担するのと同じく CSP 事業者も負担すべきという動きがあるためだ。ただそういった中でも、パワーポイントの共有サービス SlideShare 社といった企業と協業することで付加価値を付けた新しいサービスで乗り切ろうとしている。

一方で、CSP のコスト構造も変わってきていると指摘するのは、Global

Crossing 社の Warren Baxley 氏。今までは、MCU 装置が全体のコストの中で大きな割合を占めてきたが、PSTN や VoIP に関わらず、ユーザへのアクセスをどう提供するかの部分でコストの比重が高まっているという。

TeleSpan の Elliot Gold 氏によると CSP による分当たりのサービス利用料は、5 セントから 6 セントぐらいを課金しているのが普通ようだ。北米は世界最大の電話会議市場で競争が非常に激しいためだ。そういった中でも競争力のあるところは、分当たり 1 セントのところもあるという。

Radisys 社の Al Balasco 氏によると、やはりそういった厳しい市場環境では、付加価値を提供するという考えやどのように顧客に役立つかという視点が必要だと強調する。加えて、ユーザエクスペリエンス(User Experience)が重要だという声も会場から聞かれた。

市場の変化は急激で競争が激化してはいるが(ConferencePlus 社 Roger Rosenquist 氏)、企業がコラボレーションを行うというのは“普遍的な現象”(universal phenomenon)であるため、機会も多数生み出されているという(BT 社 Ken Volten 氏)見方をする人もいる。

そういった動向の中で、昨今は、VoIP の動きもあり、クラウド型サービスを提供するところも出て来た。Compunetix 社の Jerry Pompa 氏によると、「MCU メーカーの観点からは、クラウドとはいえ、実質ホスティングと変わらない。クラウドとオンプレミスのユニファイドコミュニケーションの間をどう接続するかは今後の課題のひとつだろう。」と見る。

ソーシャルネットワーキング

Facebook が 3 月にビデオチャットサービス「SocialEyes」を無料で提供開始したこともあり、業界一部では脅威としてみる向きもあるが、ソーシャルネットワーキングは、企業にとっては、顧客との人と人との関係を築いていくためのマーケティングツールであると捉えるべきとソーシャルネットワーキングのコンサルタントである Richard Kaiser 氏はいう。

一方で、TeleSpan エディタの Richard Dalton 氏によると、2 年前には、メールの使用量をソーシャルネットワーキング

が超えていると指摘。ソーシャルネットワーキングの広がりとともに、この遠隔会議業界はどのようにソーシャルネットワーキングと“付き合っていくか”考えていくべきだと主張する。

Skype

(補足:マイクロソフト買収発表前の話)。

Skype は、2005 年にビデオチャットを開始して以来その利用は増え続け、2007 年には 33%そしてそれが最近 43%まで拡大してきたという。Skype の通話は、1050 億分を越えたが、今後の課題のひとつは、有料のビデオチャット通話(paid-for video minutes)を如何に増やすかにあるという。またモビリティも重要だという。「テレプレゼンスルームに縛られる(tethered)つもりはない。場所に関係なくどこでもビデオチャットが行えることが大事だ。」(Skype 社 Chris Andrews 氏)このセミナー会場に来る前に空港で iPhone を使ってビデオチャットを行ったそうだが、こういったことがモバイルでできることはすごいことだ(opened the eyes of folks)と同氏はいう。

Skype のようなコンシューマ向けとビジネス向けの遠隔会議システムは、(Skype&ライフサイズ接続以外)基本的に現状はお互い接続ができない。Vidtel 社の Scott Wharton 氏は、「通信サービスを提供している業界として、両者の相互接続を実現していくのは必須だろう。その際には、統一したダイヤルプラン(番号計画)が必要になる。」と指摘する。

今回会場において Skype 社は、車載用のビデオチャット「TeleHD(TeleLabs 社開発)」のプロトタイプを披露。駐車している時のみ使えるという。250ドル以下で販売の予定で、月額費用はかからない。

Web カメラの動向と影響そしてコンシューマーテレプレゼンス、ネットワークの広帯域化やモバイルの普及

Logitech 社(日本法人ロジクール)の Joerg Tewes 氏によると、同社は今までに 9000 万台の Web カメラを販売したという。現在、販売されている液晶テレビなどの 50%が、インターネット接続が可能になっていることを考えると、今後 Web カメラは、居間に設置された液晶テレビなどと一緒に使われることがより

多くなるだろうと予想する。それらは、ビデオメッセージングやホーム監視、ビデオチャットなどに使われると見る。

TeleSpan の Elliot Gold は、コンシューマもビジネスもデジタルコミュニケーションの可能性が広がっているという。それは、ネットワークの広帯域化やモバイルの普及の後押しがあるからだと言及する。



TeleSpan Workshop 会場写真 (TeleSpan 資料)

Logitech 社の Joerg Tewes 氏がラスベガスの空港からワークショップ会場に来る際にタクシーに乗ったが、ドライバーから 4G カードを挿入したノート PC で、ショーの情報や食べる場所などをビデオで紹介してもらったという。モバイル環境でのインターネットがブロードバンドに対応してきている一例という。

また一方で、Elliot Gold 氏が引用したウォールストリートジャーナル(Jeff Zaslow 氏記事)によると、アメリカには、2010 年 3500 万人のテレワーカーが存在しており、連邦政府職員の 5%は在宅勤務をしているという。加えて、政府は議会に対して、そのための 2800 万ドルの予算の計上を要求しているという。前の例も合わせてこういった動きは、遠隔会議にとって追い風だと Elliot Gold 氏はいう。

今後の市場は？

市場ではさまざまなプレイヤーが参入していることもあり、既存事業者の間では脅威(new challenge)と見るところもある。無料電話や無料ビデオチャット(free and VoIP entrants)などだ。ただ、それらへの対向手段(kick butt)としては、フリーが提供するユーザエクピリエンス以上のもの

や付加価値 (value add) を提供すればよいという意見に対して、逆に可能性を広げ遠隔会議業界にとってもプラス (raises all boats) とみる参加者もいた。

またそういった市場の動きに加えて、講演者のひとりである Harry Walls 氏は、中国の台頭も注意すべきと指摘する。中国のテレビ会議市場は、2013年には世界のシェアの50%を得てトップ (new king) に躍り出るとはならないかと予想する。また、インドからのテレビ会議で講演した Harshad Contractor 氏は、インドは既に“第三世界”ではないと指摘し、今後の遠隔会議の可能性に期待をしめた。同氏が引用したフロスト&サリバン (米調査会社) の資料によると、2010年のインドのテレビ会議市場は、4200万ドル。2015年には、1億2000万ドルに拡大すると予想されている。



来年の第7回 Future of Conferencing Workshop は、2012年3月15日～16日開催。場所は、ラスベガス。ユニファイドコミュニケーションの動向を中心にワークショップが行われるようだ。

TeleSpan Publishing Corporation

<http://www.telespan.com>

セミナー・展示会情報

< 国内 >

シスコ テレプレゼンス ユーザーフォーラム 2011
～ シスコテレプレゼンスの実力を知る ～

日時: 6月1日 (水) 14:00～17:30 (受付開始: 13:30)

会場: シスコシステムズ 東京本社・大阪オフィス

* 大阪会場はテレプレゼンスによる中継となる。

主催: シスコシステムズ合同会社

詳細・申込: <http://www.cisco.com/jp/go/tp2011>

会議の効率化を実現! 『ConforMeeting 無料体験セミナー』

日程: 2011年6月1日 (水)、8日 (水)、15日 (水)、22日 (水)、29日 (水) ※全ての日程で 13:30～14:30、15:30～16:30 の2回開催

会場: NEC 情報システムズ 本社 (東京都港区)

主催: 日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込: <http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformmeeting/seminar.html>

コンプライアンス重視の在宅勤務を実現する遠隔 Web 会議サービス SaasBoard3.1 インターネットで受講できる在宅受講セミナー

日時: 6月10日 (金) 13:30～15:00

会場: ネット受講 (オンライン)

主催: ニューロネット株式会社

詳細・申込: <http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html>

成功するビジュアルコミュニケーション 戦略的活用セミナー～先進的利用顧客から学ぶ テレビ会議・Web 会議実践の秘訣～ (東京、大阪 2元中継 同時開催)

日時: 6月3日 (金) 13:30～17:20 (開場 13:00～)

会場: 東京: TKP 大手町カンファレンスセンター

大阪: TKP 大阪淀屋橋カンファレンスセンター

主催: VTV ジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.vtv.co.jp/seminar/1106vtv/index.html>

* 基調講演: 日本大学大学院商学研究科 教授 児玉充 氏。

コンプライアンス重視の在宅勤務を実現する遠隔 Web 会議サービス SaasBoard3.1 今すぐ実施できる在宅勤務 (テレワーク)

日時: 6月24日 (金) 13:30～17:00

会場: 渋谷区商工会館2F セミナー室

主催: ニューロネット株式会社、ライド株式会社

詳細・申込: <http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html>

< 海外 >

Polycom UC Webcast - LIVE

Innovation Driving UC Everywhere: From Mobile to the Cloud and Beyond With Polycom CEO Andrew Miller and Top Cloud and Mobility Industry Leaders

日時: 6月1日 (水) 8:00- 9:00 PDT | 11:00- 12:00 EDT | 15:00-

16:00 GMT (日本時間: 6月2日 (木) 0:00-1:00)

会場: オンライン

主催: 米ポリコム社

詳細・申込: http://www.polycom.com/company/events/UC_webcast_2011_Jun.html

Twitter/FaceBook/Linkedin

ツイッターとフェイスブックそして LinkedIn を行っています。よろしければご覧ください。

Twitter 日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>

英語版: <https://twitter.com/cnarj>

LinkedIn: <http://www.linkedin.com/in/cnarj>

Facebook :

<http://ja-jp.facebook.com/people/Keisuke-Hashimoto/10000200995501>

編集後記

今回もご覧いただきありがとうございました。

次回もよろしくお願い致します。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介